

防災

防災行政無線の情報伝達について

Q

近隣の自治体では、住民へのメール配信にメール配信の制度が確立されているが、町としてこの制度を検討しているか、また、導入についての考えを伺う。

A

は、小田原市・南足柄市・湯河原町・大井町がメールでの配信を導入している。箱根町では、職員を対象として、平成18年10月から緊急参集メールを導入して、緊急時に備えているものである。



防災行政無線

保有しているので、メール配信は情報を提供する手段として大変有効なものであり、導入の方法や運用について、近隣の実施の状況も参考に、調査研究をしてみたいと思っている。

観光・環境 防災

芦ノ湖の自然環境を守ることに

Q

次点について伺う。1 「環境先進観光地」を目指す中で、芦ノ湖の位置付けをどのように考えているか

2

湖の水位は、どのくらいが適正と考えているか

3

湖への不法投棄及び汚水流入の防止策について

4

自衛隊訓練による空砲音発生予定日を把握し、広報する必要性について

A

芦ノ湖は、箱根の中でもトップレベルの自然景観や観光資源を有し、誘客宣伝するうえでも最も重要な拠点であると思っており、「環境先進観光地箱根」の実現には必須である。



芦ノ湖と富士

2点目について、私としては、湖面に満々と水を湛えた芦ノ湖の姿が一番美しく、県が定めた早川の放流上限の75mが適正水位として妥当であると思っている。3点目について、まず、不法投棄防止対策としては、箱根・元箱根苑地周辺ではポイ捨て禁止や釣り客のマナー向上の啓発看板を設置し、美化啓発活動を行っている。また、町観光美化パトロール隊が巡視を行っている。不法投棄の未然防止や早期発見に努めている。

政策秘書

(仮称)箱根火山学習センターとジオパーク構想について

Q

町長所信表明の中で、箱根火山を中心とする貴重な地質資源を活用したジオパーク構想を進めたいとあるが、その進捗状況について伺う。

A

昨年5月より地質「箱根火山」を中心としたジオパークの認定に向けて、小田原市及び県立生命の星・地球博物館と協議を重ねた結果、「西さがみ連邦共和国」での研究事業として実施することで合意形成が得られ、本年2月に(仮称)小田原・箱根ジオパーク推進連絡会を設置した。この連絡会の動向については、第1次申請を見送ることは、第2次申請を予定されている第2次日本ジオパーク認定申請に向け、準備を進めることとなった。

その理由としては、3つのプレートが重なり合う地域に位置しており、プレート境界域では、国府津―松田断層などの活断層が形成され、地球の活動が活発に行われている地域となつていく。そして、当地域の中心的存在である箱根火山は、伊豆―小笠原弧の最北端部にあり、ここが沈み込む境界は箱根火山の北側とみても非常に重要な地域であり、また、公共交通機関が発達しているため、気軽に訪れることができる観光地であり、誰でも気軽に地質に触れることができる環境が整っている。地質資源は十分にあるが、これらを活用する体制や運営する組織については、今後の検討課題となっている。このような状況の中で、推進体制の枠組みなど基本構想を整理したうえで、学術的にも財政的にも無理のない持続可能な範囲であるかどうかを見極めながら、「西さがみ連邦共和国」の枠組みの中で、認定に向けた取り組みを進めていきたいと思っている。